

DERWENT-ACC-NO: 1992-156088

DERWENT-WEEK: 199219

COPYRIGHT 2007 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Dry process for treating waste gas  
contg. chlorine fluoride - by bringing into contact  
with combination of solid alkali and adsorbent

PRIORITY-DATA: 1990JP-0212698 (August 10, 1990)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO

PUB-DATE

LANGUAGE

PAGES

MAIN-IPC

★ → JP 04094723 A

March 26, 1992

N/A

004 N/A

JP 95016583 B2

March 1, 1995

N/A

003 B01D 053/68

INT-CL (IPC): B01D053/34, B01D053/68

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 04094723A

BASIC-ABSTRACT:

Process is that an exhaust gas contg. chlorine fluoride is brought into contact with a combination of solid alkali and adsorbent.

Pref. adsorbent is a combination of activated C and zeolite 5 A. This adsorbent is useful for removal of residual Cl coming out at a restart of operation after a long time suspension of the equipment.

USE/ADVANTAGE - In equipment of CVD, vapour deposition or sputtering, scaling

occurs on a furnace wall, reactor wall, jigs, etc. Chlorine trifluoride can be used for dry removing of the scale. The present process can be applied for simply and efficiently cleaning waste gas of the chlorine trifluorides treatment

----- KWIC -----

Patent Family Serial Number - PFPN (1):  
04094723

Document Identifier - DID (1):  
JP 04094723 A

⑫ 公開特許公報(A) 平4-94723

⑬ Int. Cl.<sup>5</sup>

B 01 D 53/34

識別記号

1 3 4 C

庁内整理番号

6816-4D

⑭ 公開 平成4年(1992)3月26日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 フッ化塩素を含む排ガスの乾式処理方法

⑯ 特 願 平2-212698

⑰ 出 願 平2(1990)8月10日

⑱ 発 明 者 久 保 昌 弘 山口県宇部市大字西岐波大沢4416-1  
 ⑱ 発 明 者 中 川 伸 介 山口県宇部市恩田町1-6-27  
 ⑱ 発 明 者 中 野 久 治 山口県宇部市大字東岐波3292-5  
 ⑱ 発 明 者 市 丸 広 志 山口県宇部市上宇部643-1  
 ⑱ 発 明 者 田 井 中 正 弘 山口県宇部市大字西岐波2695-9  
 ⑲ 出 願 人 セントラル硝子株式会社 山口県宇部市大字沖宇部5253番地  
 ⑳ 代 理 人 弁理士 坂本 栄一

明 細 書

1. 発明の名称

フッ化塩素を含む排ガスの乾式処理方法

2. 特許請求の範囲

(1) フッ化塩素を含む排ガスを固体状アルカリ

および吸着剤と接触させることを特徴とするフッ化塩素を含む排ガスの乾式処理方法。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

本発明は、フッ化塩素を含む排ガスの処理方法に関するものである。

[従来技術]

半導体製造、超硬工具製造等の分野を中心に薄膜形成プロセスが普及し、CVD装置や真空蒸着、スパッタリング装置が多数稼働している。しかし、上記種々の装置においては、基板に堆積すべき膜物質の一部が炉壁、反応器壁、治具等に付着してスケールとなり工程に支障を来すため定期的にこれらのスケールをクリーニングすることを必要としている。従来、炉や反応器を解体して酸によ

る湿式洗浄法で対処していたスケールのクリーニングに対して、本発明者らは三フッ化塩素等のガスによっておこなう乾式クリーニング法を提案し(特開昭64-17857号)、これにより炉や反応器を解体することなくスケールの除去をおこなうことが可能となった。また、クリーニング剤、クリーニング生成物ともガス状であるためクリーニング作業が大幅に省力化されるところとなった。

該乾式クリーニングにおいて排出されるガスは反応生成物である塩素、スケールのフッ化物のほか未反応の三フッ化塩素、不活性ガスとしての窒素が主であるが、さらに希釈用の空気等の混合物であり、そのまま排出することはできないものである。しかるに、かかる排ガスの効果的な処理方法については、十分な検討がなされていなかった。

そこで本発明者らは、先に排ガスをアルカリと亜硫酸塩または重亜硫酸塩との混合水溶液で洗浄することを特徴とする湿式除害方法および排ガスを、固形中和剤と固形の亜硫酸塩または重亜硫酸塩と接触させることを特徴とする乾式除害方法を

開発し、特願平2-10004号として提案した。

〔問題点を解決するための具体的手段〕

本発明者らは、上記方法の中で特に高濃度のガスを処理できる乾式方法についてさらに検討した結果、固形状のアルカリにより連続的な除害処理を行う際は問題なく処理できるが、一旦処理を中断した後に再び処理を開始した場合、アルカリ充填層通過後のガス中に少量の塩素が存在することを見だし、この除去方法を検討した結果、本発明に到達したものである。

すなわち本発明は、フッ化塩素ガスを含む排ガスを固形状アルカリおよび吸着剤と接触させることを特徴とするフッ化塩素を含む排ガスの乾式処理方法を提供するものである。

本発明の除害の対象となるフッ化塩素は、 $\text{ClF}$ 、 $\text{ClF}_3$ 、 $\text{ClF}_5$ の形で表わされるフッ化塩素である。

これらのガスは、普通前述したようにクリーニング等の処理を行った後であるため、フッ化塩素ガスの他、クリーニング処理により生成した各種

のフッ化物、塩素および不活性ガスを含有する。

このようなガスは、固形状のアルカリ充填層を通過させることにより除害することができる。

この場合に使用する固形状アルカリとしては、アルカリ金属もしくはアルカリ土類金属の水酸化物、酸化物または炭酸塩が挙げられるが、中でもソーダライム、水酸化カリウム、水酸化ナトリウム、酸化カルシウム、水酸化カルシウム等が好ましく、前記化合物は顆粒状の形で用いることができる。

前記の排ガスが、固形状アルカリ層と接触すると化学反応がおこり、アルカリ金属またはアルカリ土類金属のフッ化物または塩化物が生成し、充填層中に固定される。

この際の反応は発熱反応であるので、上記反応中は充填層の温度がかなり上昇する。充填層の温度は除害装置単位断面積当りのフッ化塩素ガスの処理流量およびその濃度によって決まるので、除害装置の設計条件に応じた処理流量、濃度条件にて処理する必要がある。即ち、数十vol%という高

濃度の排ガスを直接処理する時は、充填層のガス通過速度を通常数cm/min程度以下にとらなければならないし、希釈ガスの利用が許容される場合は、窒素等の不活性ガスで数vol%に希釈するのが望ましい。

上述したような方法で、フッ化塩素ガスを固形状アルカリと連続的に反応させることにより、これらのガスに含まれるフッ素、塩素、フッ化物等を完全に除害できるものである。

しかし本発明者らは、斯かる原理に基づくフッ化塩素を含む排ガスの除害実験を繰り返し実施するうちに、一旦上記の除害処理を終了休止した後、引き続き除害処理を再開した場合、再開後数分程度は除害処理が完全に行われず、数十ppm程度の塩素ガスがアルカリ充填層通過後のガス中に残留してしまうという現象が起きることに気がついた。この現象は除害処理の中断が数分程度の短時間の場合には起こらず、例えば一晩というように長い中断後に起きる。その機構については充分明らかになってはいないが、連続的に処理を継続して

いるような時には発生しない塩素ガスが、長時間休止後再開した時に除害ガス中に認められるという点から、連続処理中断休止によって温度が下がり、フッ素に比べて反応性に劣る塩素の固定化反応が充分進行せず、温度が回復するまでの間除害ガス中に少量でできたものと考えられる。

この処理中断後の塩素ガスの流出を防止するためには、充填層全体をヒーターで予熱しておくという方法も考えられるが、斯かる方法は装置が大型化し、電力も消費するため設備費、ランニングコストともに負担が増すものであり、実用的であるといえない。

簡単な装置によってこの問題を解決する方法について検討を重ねた結果、アルカリ剤と塩素ガス吸着剤をこの順序で組み合わせる使用するのが最も効果的かつコスト的にも有利であり、塩素ガス吸着剤としては活性炭とゼオライトが有効であることを見出したものである。すなわち、本発明の吸着剤としては、活性炭とゼオライト5Aが挙げられる。

斯かる塩素ガス用の吸着剤はアルカリ薬剤に較べて高価でありかつその処理容量も小さいので単独で使用するにはコスト的に不利である。本発明は前段のアルカリ薬剤でフッ化塩素等の有害ガスの大部分を固定化処理し、ここで処理しきれないごくわずかの塩素を少量の吸着剤で完全に取り除く非常に経済的で効率的なシステムを提供するものである。

上述したように本発明の方法により、フッ化塩素を含む排ガスを処理する場合、処理を中断した場合にも常に最終的に排出されるガス中の不純物はフッ素濃度が $F_2$ として0.5ppm以下、塩素濃度が $Cl_2$ として0.5ppm以下の値となり、フッ化塩素のクリーニング排ガスを確実にかつ簡単に除害することができるものである。

以下、実施例により本発明を具体的に説明する。  
実施例 1 ～ 3

ガス出口側に内径50mm、高さ20mmの吸着剤充填部を有する内径400mm、高さ900mmの固定床反応器の吸着充填部に活性炭200gを充填し、さらに反

7

結果を第1表に示すが、いずれも処理後の排ガスはフッ素濃度（ $F_2$ 換算、以下同様の分析値）：0.5ppm以下、塩素濃度（ $Cl_2$ 換算、以下同様の分析値）：0.5ppm以下の値であった。

さらに上記方法による処理を1時間継続した後、排ガスの供給を中断し、塩素ガスにて残ガスを充分追い出し24時間放置し、上記方法と全く同様の操作を繰り返し、同様にフッ素濃度および塩素濃度を測定した。

その結果、処理後の排ガスは連続処理時と同様にフッ素濃度：0.5ppm以下、塩素濃度：0.5ppm以下の値であり、本発明の方法により三フッ化塩素、四フッ化珪素、塩素は完全に除害できることがわかった。

実施例 4、5

CVD装置のクリーニングにより発生する可能性のあるガスの1種として、六フッ化タングステンを選び、第1表に示すガス組成を選んで実施例1～3と同様の方法で処理を行ったところ、連続的処理および処理中断後の処理においても、処理

9

反応器本体には粒径が4～5mmの粒状のソーダライム75kgを充填して、該容器を種々のガスを排出できるラインに接続し除害用の試験装置とした。

次に、アモルファスシリコンをCVDで基板に析出させる反応容器において、器壁に付着したアモルファスシリコンのスケールを三フッ化塩素ガスで乾式クリーニングした場合の排ガスのモデル組成として第1表に示すような組成に三フッ化塩素、四フッ化珪素、塩素、窒素をそれぞれ混合してテスト用のガスとした。

上記テスト用のガスを、それぞれいずれも反応器の上部より流量10ℓ/minで反応器に導入して2時間連続して処理し、容器通過後のガス中のフッ素および塩素の濃度を分析した。この場合、塩素ガス濃度の分析には、ガステック社製の塩素用検知管を使用、一方フッ素濃度の分析には、処理後のガスをアンモニア水を吸収液とするガス洗浄器中にバブリングさせて吸収させ、この溶液中のフッ素濃度をフッ素イオン電極で分析する方法で測定した。

8

後の排ガスはフッ素濃度：0.5ppm以下、塩素濃度：0.5ppm以下の値であり、本発明の方法により六フッ化タングステンも完全に除害できることがわかった。

比較例 1 ～ 3

吸着剤充填部を有しない外は実施例1～3と全く同様の装置およびテスト用のガスを用いて、実施例1～3と全く同様の方法を実施した。そのガス組成および処理後のガス組成を同じく第1表に示す。

結果からわかるように、最初の連続的処理の後の出口ガス中のフッ素および塩素の濃度は、フッ素濃度：0.5ppm以下、塩素濃度：0.5ppm以下の値であり、完全に除害できるが、一旦中断後に実施例と同様の除害処理を行った場合、処理後の約10～15分間に、比較例1では20ppm、比較例2では50ppm、比較例3では80ppmと塩素ガスが未処理のまま排出されることがわかった。

(以下省略)



10

## 〔 発 明 の 効 果 〕

本発明の方法によれば、半導体の製造工程等でのCVD法、PVD法等で生成するスケールを効率よく簡単にクリーニングできるフッ化塩素ガスを用いてクリーニングした後の排ガスを確実に除害処理することができ、有害物質の放出を防ぐことができるものである。

特許出願人 セントラル硝子株式会社

代理人 弁理士 坂 本 栄 一



実施例 比較例	ガ ス 組 成					処理ガス組成Ⅰ		処理ガス組成Ⅱ	
	ClF <sub>3</sub> (vol%)	SiF <sub>4</sub> (vol%)	Cl <sub>2</sub> (vol%)	WF <sub>6</sub> (vol%)	N <sub>2</sub> (vol%)	F <sub>2</sub> (ppm)	Cl <sub>2</sub> (ppm)	F <sub>2</sub> (ppm)	Cl <sub>2</sub> (ppm)
実施例 1	1	5	5	—	89	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
実施例 2	5	5	5	—	85	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
実施例 3	10	5	5	—	80	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
実施例 4	5	—	5	5	85	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
実施例 5	10	—	5	5	80	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
比較例 1	1	5	5	—	89	<0.5	<0.5	<0.5	20
比較例 2	5	5	5	—	85	<0.5	<0.5	<0.5	50
比較例 3	10	5	5	—	80	<0.5	<0.5	<0.5	80

注 1) 処理ガス組成Ⅰは、最初に連続除害処理した時のガス組成を示す

注 2) 処理ガス組成Ⅱは、休止後、除害処理再開時のガス組成を示す

注 3) 処理ガス組成Ⅰ、Ⅱは、いずれも除害対象成分を F<sub>2</sub>、Cl<sub>2</sub> 換算で表示

Machine Translation of [JP,07-016583,B(1995)]

**Disclaimer:**

This English translation is produced by machine translation and may contain errors. The JPO, the INPIT, and those who drafted this document in the original language are not responsible for the result of the translation.

**Notes:**

1. Untranslatable words are replaced with asterisks (\*\*\*).
2. Texts in the figures are not translated and shown as it is.

Translated: 01:57:24 JST 02/28/2007

Dictionary: Last updated 02/09/2007 / Priority: 1. Chemistry / 2. Natural sciences / 3. Technical term

---

FULL CONTENTS

---

[Claim(s)]

[Claim 1] The dry processing method of the exhaust gas containing the chlorine fluoride characterized by contacting the exhaust gas containing chlorine fluoride to a solid-like alkali and an adsorbent.

---

[Detailed Description of the Invention]

[Industrial Application]

This invention relates to the treatment method of the exhaust gas containing chlorine fluoride.

[Description of the Prior Art]

A thin film formation process spreads focusing on fields, such as semiconductor manufacture and sintered carbide tool manufacture, and CVD equipment, and many pieces of vacuum deposition and sputtering equipment are working. However, in above-mentioned various pieces of the equipment, in order for some film substances which should be deposited on a substrate to adhere to a furnace wall, a reactor wall, a jig, etc., to serve as a scale and to interfere with a process, it needs to clean these scales periodically. As opposed to the cleaning of a scale which disassembled the furnace and the reactor conventionally and was coping with it with the wet cleaning method by an acid, This invention persons proposed the dry type cleaning method performed by gas, such as chlorine trifluoride, (JP,64-17857,A No.), and it became possible to remove a scale, without this disassembling a furnace and a reactor. Moreover, since a cleaning agent and a cleaning product were gas-like, they became the place where cleaning work is economized sharply.

Although chlorine which is a resultant, unreacted chlorine trifluoride besides the fluoride of a scale, and nitrogen as inert gas are main, the gas discharged in this dry type cleaning is mixtures, such as air further for dilution, and cannot be discharged as it is. However, sufficient examination was not made about the effective treatment method of this exhaust gas.

[ this invention persons / then, the wet damage elimination method and exhaust gas which are characterized by washing exhaust gas with a mixed water solution with an alkali, bad

sulfate, or a bisulfite previously ] The dry type damage elimination method characterized by making a solid neutralizer, solid sulfite, or a bisulfite contact is developed, and it is Tokuganhei2-10004. It proposed.

[The concrete means for solving a problem]

Although this invention persons can process satisfactorily when they perform continuous damage elimination treatment with a solid alkali as a result of examining further especially the dry type method that high-concentration gas can be processed, in the above-mentioned method, This invention is reached, as a result of finding out that a small amount of chlorine exists in the gas after alkali packed bed passage and examining this removal method, when treatment is again started once interrupting treatment.

That is, this invention offers the dry processing method of the exhaust gas containing the chlorine fluoride characterized by contacting the exhaust gas containing chlorine fluoride gas to a solid-like alkali and an adsorbent.

The chlorine fluoride which is the target of damage elimination of this invention is chlorine fluoride expressed with the form of  $\text{ClF}$ ,  $\text{ClF}_3$ , and  $\text{ClF}_5$ .

Since it is after processing cleaning etc., as these gas is usually mentioned above, it contains various kinds of fluorides, chlorine, and inert gas which were generated by cleaning treatment besides chlorine fluoride gas.

Such gas can be eliminated by passing a solid-like alkali packed bed.

In this case, it is although the hydroxide of an alkali metal or an alkaline earth metal, an oxide, or carbonate is mentioned as a solid-like alkali to be used, A soda lime, potassium hydroxide, sodium hydroxide, calcium oxide, a calcium hydroxide, etc. are especially desirable, and said compound can be used in a granular form.

*granular*

If the aforementioned exhaust gas contacts a solid-like alkali layer, a chemical reaction will start, the fluoride or chloride of an alkali metal or an alkaline earth metal generates, and it is fixed in a packed bed.

Since the reaction in this case is an exothermic reaction, the temperature of a packed bed rises considerably during the above-mentioned reaction. Since the temperature of a packed bed is decided by the treatment flow rate of the chlorine fluoride gas per damage elimination equipment unit cross-section area, and its concentration, it is necessary to process on the treatment flow rate and concentration conditions according to the design condition of damage elimination equipment. namely, the case where must usually take the gas transit rate of a packed bed to below several centimeters / min grade, and use of dilution gas is permitted when carrying out direct processing of the high-concentration exhaust gas of tens vol(s)% -- inert gas, such as nitrogen, -- several -- diluting to vol% is desirable.

By a method which was mentioned above, fluorine, chlorine, a fluoride, etc. which are contained in these gas can be completely eliminated by making chlorine fluoride gas react continuously with a solid-like alkali.

[ persons ] while [ however, ] this invention persons repeat and conduct the damage elimination experiment of the exhaust gas containing the chlorine fluoride based on this principle When it pulled and continues and damage elimination treatment is resumed once carrying out the end pause of the above-mentioned damage elimination treatment, damage elimination treatment is not completely performed about several minutes after resumption, but about tens of ppm chlorine gas remains in the gas after alkali packed bed passage. One has noticed the phenomenon of keeping occurring. This phenomenon does



not happen, when discontinuation of damage elimination treatment is the short time which is about several minutes, for example, it occurs after long discontinuation like a night. It is the point of accepting into damage elimination gas when the chlorine gas which does not occur while continuing treatment continuously resumes after a prolonged pause although it is not clear enough about the mechanism to a continuous processing discontinuation pause. Temperature falls, and the fixed reaction of chlorine which is inferior to reactivity compared with fluorine does not advance enough, but it is thought that it has come out in small quantities into damage elimination gas until temperature is recovered.

Equipment enlarges this method, in order to prevent the outflow of the chlorine gas after this treatment discontinuation, the method of preheating the whole packed tower at a heater is also considered, but since it also consumes electric power, its burden does not increase the cost of equipment and running cost, and it cannot be said that it is practical. As a result of repeating examination about how to solve this problem with easy equipment, it is advantageous also most effectively in cost to use it combining alkali drugs and a chlorine gas adsorbent in this order, and it is a chlorine gas adsorbent. It finds out that \*\*\*\*\* and zeolite are effective. That is, as an adsorbent of this invention, \*\*, activated carbon, and Zeolite 5A are mentioned.

The adsorbent for these chlorine gas is expensive compared with alkali drugs, and since the treatment capacity is also small, it is disadvantageous to use it independently in cost. This invention is a thing which removes completely the very slight chlorine which carries out fixed treatment and cannot process the great portion of harmful gas, such as chlorine fluoride, with the alkali drugs of the preceding paragraph here with a little adsorbents and which is very path finishing-like and offers an efficient system.

The fluorine concentration of the impurity in the gas always discharged [ as mentioned above, ] finally also when processing the exhaust gas containing chlorine fluoride by the method of this invention, and treatment is interrupted is F<sub>2</sub>. 0.5 ppm or less and chlorine concentration serve as a value of 0.5 ppm or less as Cl<sub>2</sub>, and the cleaning exhaust gas of chlorine fluoride can be eliminated certainly and easily.

An example explains this invention concretely hereafter.

The adsorption restoration part of a fixed bed reactor with the inside diameter of 50mm, an inside diameter of 400mm which has a 20-mm-high adsorbent restoration part, and a height of 900mm is filled up with 200g of activated carbon at the example 1 - 3 gas-outlet side, and the main part of a reactor is further filled up with granular soda lime 75kg whose grain size is 4-5mm. This container was connected to the line which can discharge various gas, and it was considered as the test equipment for damage elimination.

Next, amorphous silicone is set in the reaction container which deposits a substrate by CVD, Chlorine trifluoride, silicon tetrafluoride, chlorine, and nitrogen were mixed, respectively to the presentation as shown in the 1st table as a model presentation of the exhaust gas at the time of carrying out dry type cleaning of the scale of amorphous silicone adhering to a container wall by chlorine trifluoride gas, and it was considered as the gas for a test.

Respectively all introduced the gas for the above-mentioned test into the reaction container, and processed it continuously by flow rate 10\*\*/min, from the upper part of the reaction container, for 2 hours, and the concentration of the fluorine in the gas after container passage and chlorine was analyzed. In this case, made analysis of chlorine gas

F<sub>2</sub>

concentration carry out bubbling of the indicator tube for chlorine by a gas tech company into use and the gas cleaning device which uses aqueous ammonia as an absorbing solution for the gas after treatment on the other hand at analysis of fluorine concentration, it was made to absorb, and it measured by the way a fluorine ion electrode analyzes the fluorine concentration in this solution.

Although the result was shown in the 1st table, the exhaust gas after processing all was a value less than fluorine concentration (F<sub>2</sub> conversion, the same analytical value as the following):0.5ppm, and not more than chlorine concentration (Cl<sub>2</sub> conversion, the same analytical value as the following):0.5ppm.

After continuing treatment by the above-mentioned method furthermore for 1 hour, supply of exhaust gas was interrupted, \*\* gas was enough neglected with nitrogen gas for dismissal 24 hours, the completely same operation as the above-mentioned method was repeated, and fluorine concentration and chlorine concentration were measured similarly. As a result, the exhaust gas after treatment is a value less than fluorine concentration:0.5ppm and not more than chlorine concentration:0.5ppm like the time of continuous processing, and it turned out that chlorine trifluoride, silicon tetrafluoride, and chlorine can be completely eliminated by the method of this invention.

As one sort of the gas which may occur by cleaning of an example 4 and 5CVD equipment, When 6 fluoridation tungsten is chosen, the gas composition shown in the 1st table is chosen and it processes by the same method as examples 1-3, it also sets to continuous treatment and the treatment after treatment discontinuation. the exhaust gas after treatment -- fluorine concentration: -- it is 0.5 ppm or less and a value not more than chlorine concentration:0.5ppm, and it turned out that 6 fluoridation tungsten can also be completely eliminated by the method of this invention.

The outside which does not have example of \*\*\*\* 1 - 3 adsorbent restoration part enforced the completely same method as examples 1-3 using the completely same equipment as examples 1-3, and the gas for a test. Similarly the gas composition and the gas composition after treatment are shown in the 1st table.

As a result shows, the concentration of the fluorine in the outlet gas after the first continuous treatment and chlorine is a value less than fluorine concentration:0.5ppm and not more than chlorine concentration:0.5ppm. Although the damage could be eliminated completely, when the damage elimination treatment as an example that it is the same after discontinuation was once performed, it turned out that it is discharged by 20 ppm in a comparative example 1, and it is discharged by a comparative example 2 in [ of an after / treatment ] about 10 to 15 minutes while 80 ppm and chlorine gas have been unsettled in 50 ppm and a comparative example 3.

実施例 比較例	ガス組成					処理ガス組成 I		処理ガス組成 II	
	ClF <sub>3</sub> (vol%)	ClF <sub>4</sub> (vol%)	Cl <sub>2</sub> (vol%)	WF <sub>6</sub> (vol%)	N <sub>2</sub> (vol%)	F <sub>2</sub> (ppm)	Cl <sub>2</sub> (ppm)	F <sub>2</sub> (ppm)	Cl <sub>2</sub> (ppm)
実施例 1	1	5	5	—	89	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
実施例 2	5	5	5	—	85	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
実施例 3	10	5	5	—	80	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
実施例 4	5	—	5	5	85	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
実施例 5	10	—	5	5	80	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
比較例 1	1	5	5	—	89	<0.5	<0.5	<0.5	20
比較例 2	5	5	5	—	85	<0.5	<0.5	<0.5	50
比較例 3	10	5	5	—	80	<0.5	<0.5	<0.5	80

注1) 処理ガス組成 I は、最初に連続除害処理した時のガス組成を示す

注2) 処理ガス組成 II は、休止後、除害処理再開時のガス組成を示す

注3) 処理ガス組成 I, II は、いずれも除害対象成分をF<sub>2</sub>, Cl<sub>2</sub>換算で表示

#### [Effect of the Invention]

According to the method of this invention, damage elimination treatment of the exhaust gas after KURINGU [ the scale generated by the CVD method in the manufacturing process of a semiconductor etc., the PVD method, etc. ] using the chlorine fluoride gas [ KURINGU / efficiently / gas / easily ] can be carried out certainly, and discharge of a toxic substance can be prevented.

---

[Translation done.]